

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570102362		
法人名	社会福祉法人 松涛会		
事業所名	グループホーム フロイデ彦島		
所在地	山口県下関市彦島西山町3丁目2-1号		
自己評価作成日	平成29年7月20日	評価結果市町受理日	平成30年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしく 穏やかに 生きがい 喜び(よろこび)」という、理念のもと、職員全員で同じ目標に向かい、入居者様・ご家族様一人ひとりに、今のような支援が必要で何を求めているのか、パーソンセンタードケアを取り入れ、一人ひとりに合わせた支援が提供できるように努めています。センター方式を活用し、真の思いに気付けるよう、努めています。また、地域保育園の園児との交流や地域の行事等に積極的に参加し、地域の方との関わり合いを大切に、お互い良い関係が築けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、日常の関わりの中での利用者一人ひとりの言葉や表情などから、思いや意向の把握に努めておられ、カンファレンスで「利用者の本当の思い」について話し合われ、一時帰宅をして近所の家の花を貰うことを楽しみにしている利用者への支援や日課表にそって算数の計算や国語などの指導をされる元教員の利用者への支援など、一人ひとりの思いや暮らし方を大切に日々ケアに取り組んでおられます。新たに薬剤師、駐在所職員、婦人会員、民生委員、自治会長、老人会員などを運営推進会議のメンバーに加えておられ、拠点施設合同の火災避難訓練に運営推進会議のメンバーが参加されたり、自治会主催の図面上の模擬防災訓練に職員が参加されて連携について話し合っておられる他、拠点施設の緊急自動通報網に自治会長や副会長が加入しておられるなど、災害時の地域との協力体制を構築しておられます。利用者は、地域の文化祭に作品を出展されたり、盆供養や老人会のバスの乗り方教室に参加されているなど、地域の人との交流を深めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく穏やかに生きがいを歓喜(よろこび)」という理念を掲げ、毎朝のミーティング時、皆で唱和し意識を高め毎日のケアにあたっている。またカンファレンスや会議で話し合う際は、理念に基づき職員皆が同じ方向を向き援助できるようにしている。	事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示し、朝のミーティング時に唱和している。月1回のカンファレンスで話し合い、理念に沿った介護について確認を行い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(地域の防災訓練・夏祭り・地域文化祭)に参加している。又、ボランティアとして月に1回地域清掃に参加したり、保育園児や小学生、中学生、高校生らを招いて交流を図っている。	自治会に加入している。副施設長が総会に出席している他、老人会に加入し、地域の情報を得ている。月1回の地域清掃作業には管理者が参加している。利用者は、地域の文化祭に作品を出展したり、盆供養、老人会のバスの乗り方教室などに参加して、地域の人と交流している。拠点施設合同の夏祭りや文化祭には地域住民の参加があり、利用者は、知人や馴染みの人と楽しんでいる。ボランティア(コーラス、フラダンス、日本舞踊など)の来訪がある。拠点施設内の交流室を地域の人に開放し、ピアノ演奏会などを開催し、地域の人を訪れている。保育園児や小学生との交流、中学生や高校生の体験学習、専門学生や大学生の実習を受け入れている。七夕飾り用の笹の寄贈や焼き芋、柿などの差し入れがあるなど、地域の人と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	フロイデ彦島主催の認知症サポート養成講座を開催し、地域の方を招いた。小学生や中学生に実際に入居者と触れあってもらい、認知症の人についての理解を深めてもらっている。運営推進会議を通して、地域の方にも伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全体会議にて、自己評価及び外部評価について意義は職員全員に説明している。自己評価を実施する事で職員一人ひとりが客観的に見る事ができ、改善点は管理者をはじめ、職員全員で共有しケアに活かせるように取り組んでいる。	評価の意義について管理者が説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布して記入してもらい、管理者と計画作成担当者が整理し、職員に回覧して意見を聞きまとめている。前回の評価結果を受けて、救急救命法講習の受講や内部研修で感染症を含めた緊急時の初期対応や応急手当などの実践力を身につける訓練に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議にて近況及び実施行事等を報告説明、会議で出された意見・アドバイスは事業所にて議事録、全体会議で取り上げ皆で話し合いサービスの向上に努めている。会議事録は、ご家族にも配布し報告している。	新たに、薬剤師、駐在所職員、婦人会員、民生委員、自治会長、老人会員などの地域メンバーを加え、会議は2か月に1回開催している。近況状況、行事報告、研修報告、防災訓練等の報告を行い情報交換や話し合いをしている。事業所の運営に関心を持ってもらうために議事録を家族に送付し、会議の様子を伝えている。	・議題の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導で知り得たことは直ぐに確認し不十分であることは補うようにしている。又、相談等あれば、いつでも躊躇なく相談できる環境である。運営推進会議には、地域包括センター職員も参加していただいていて議事内容も議事録にて報告している。	市担当者とは、出向いたり、電話やメールで相談したり、情報の交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話、FAXで利用者の状況等の相談をしたり、情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束マニュアルを設置、全職員が閲覧、確認できるようにしている。又、研修に参加する事で意識を高めている。施錠については、見守り職員が、1人になることがある為、安全面を考え、止むおえず施錠することがある。	マニュアルがあり、職員は拠点施設全体研修で学び、抑制や拘束をしないケアに努めている。外出したい利用者とは拠点施設内を一緒に散歩したり、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては、管理者が指導している他、職員間でも話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルや関連した資料を全職員が閲覧できるようにしている。研修や勉強会に参加し適切なケアが行われるように努めている。また入居者の状態を日々観察し変化があれば記録に残し、職員同士が話し合い主張し合える環境を作り虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修などで学ぶ機会があり、個々の必要性に応じて活用できるように支援している。現在、成年後見制度を利用している入居者はいないが、必要であれば活用していきたいと思っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。契約時に契約書、重要事項説明書の内容を、1つ1つ読み上げて、説明を行い理解・納得してもらえるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を設け、面会時など気軽に意見や要望など出してもらえるようにしている。職員に直接意見できるように、日頃から家族との会話を大切に話しやすい環境を作り、改善後もきちんと説明をし、納得してもらっている。	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きなどについて、本人や家族に説明している。面会時や運営推進会議時、年1回の家族会参加時、事業所だより(各利用者の日常の様子を伝えるメモも同封)送付時、電話等で家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。2ユニット合同の行事(家族会等)は、参加人数が多すぎるという意見があり、ユニット毎で実施しているなど、反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員参加の全体会議や各ユニットの会議では職員一人ひとりが意見できるように、検討内容を記入する用紙を提示しいつでも誰でも記入することができる。また、会議に限らず毎日のミーティングで意見交換できる場が設けられており、意見・提案を反映できるようにしている。	副施設長が出席している月1回の全体会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は朝のミーティング時や日常業務の中でも聞いている。職員からの提案で、伝達簿の様式を変更したり、勤務体制の変更など、職員の提案や意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人ひとりの、性格や能力を認め、それに合わせた役割を与え、やりがいを感じられるようにしている。ストレスチェックを行い、職員の目では見えない状態なども、わかるようにし勤務体制を整えている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、施設内・外の様々な研修に参加の機会がある。特に認知症研修には、積極的に参加できる環境である。研修参加後には法人内で研修発表をし、全職員が内容を共有、把握できるようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え希望や段階に応じ、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講者は復命をし資料は回覧している。認知症介護実践者研修や介護支援専門員研修、法人研修の高齢者救急搬送などに参加している。拠点施設合同研修では、虐待、接遇マナー、身体拘束についてなどを実施している。内部研修では、認知症、転倒、ノロウイルスを含む緊急時の対応などについて実施している。新人職員は法人の年2回の研修を受講し、日常業務の中で管理者や先輩職員から介護知識や技術を働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加の際は、他施設の方と交流を図っている。研修後も意見交換を行う機会があり、ネットワークを作り、より良いサービスを提供できるよう取り組んでいる。法人内のグループホームが集まる合同会議では情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にしっかり家族の思い要望等を聞き、その上でプラン作成し、本人家族に了承を得て実施している。入居後は本人の思いが知れるよう接する時間を多く取り、安心して過ごしてもらえるような支援ができるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に契約書や重要事項説明書の内容をしっかり説明し、グループホームで出来る事・出来ない事をきちんと伝えることで安心してもらえるようにしている。面会時には細目に近況報告を行い、より良い信頼関係を築ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの意見・思いを聞き「その時」必要な支援を見極め、その上で入居後に考えられる状況変化(車椅子、シルバーカーの使用等)について、他サービスの紹介を含め、説明対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の意を表し、本人のペースに合わせ、思いを大切にしている。同じ時間同じ場所を共に過ごす者同士、良い関係を築きながら、一緒に笑ったり、喜び合ったりする時間を大切に、感謝の言葉を忘れずに伝えている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や他行事の参加の呼び掛けをしたり、面会時には自室で家族とゆっくり過ごせるよう配慮している。また、本人のことで困っていることなど相談し合ったり、アドバイスをいただいたりしてより良い支援ができるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも知人・友人の面会を受け入れている。地域行事には、その地域出身者も参加し馴染の方との交流も図れている。個人的に希望があれば、外出も行えるように支援に努めている。	家族の面会や親戚の人、知人、友人、俳句仲間、ケアハウスの知人、教え子の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。馴染みの美容院の利用、商店での買物、自宅周辺のドライブの他、家族の協力を得て月1回の茶会参加、外出、外食、一時帰宅、墓参り、法事への出席、結婚式への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が楽しく過ごせるよう、食事の席や共有スペースの席を常に意識して、環境を整えている。時には、気の合う仲間を部屋へ招き、ティータイムや食事などで過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が行っているが、契約終了後も家族が不安にならないように必要に応じ相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の声に耳を傾け、ゆっくり関わる本人の視点で考え一人ひとりに合った支援方法ができるよう努めている。また家族から知り得た情報や本人の発言内容を記録に残し、職員が共有できるようにしている。困難な場合はセンター方式を活用し本人本位に検討している。	入居時のセンター方式のシートを活用している他、日ごろから利用者に寄り添うケアに努め、利用者一人ひとりの言動、表情等から気づきを「ふれあい記録」に記録して、職員間で共有して、本人の視点に立って話し合い、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴や、本人、家族、ケアマネからの情報を集めたり、センター方式(B-3)を活用したりと、これまでの人生を把握できるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録(ふれあい記録)に毎日の様子や活動を記録し、職員全員で共有できるようにしている。状態の変化などあれば、筆記用具の色を変える等の工夫をし、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	長期・短期プラン終了の際は本人の思いや家族の要望など聞き入れカンファレンスを行い、プラン作成に反映させている。必ず全員に意見を出してもらい、話し合いケアプラン作成を行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心になって、月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師、関係者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、期間に応じた見直しをしている他、利用者の状態や要望の変化に応じてその都度見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ふれあい記録、バイタル・排泄・食事摂取量の記録を個別に作成していて、職員全員が共有・把握している。私の姿シートにはすぐに書き込めるようにしておりプランを見直す際は、プランの実施状況と合わせて見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設という利点もあり、様々な行事参加や、設備の使用など、他部署との連携もあり、その時の状況に合わせて、柔軟にサービスが提供できるように取り組んでいる。家族から要望があれば遠方の家族に手紙やメールなどの近況報告も行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブを兼ねて、近くのスーパーやホームセンターに買い物に行ったり、家族をたずねたり、本人が楽しめるような支援ができるよう努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を紹介し説明した上で同意を得ている。月2回主治医による回診があり、近況報告している。電話やメールでの相談、報告も随時行っており常時連絡取り合える体制を整えている。また以前からのかかりつけ医も受診できるよう、連携を取り情報共有している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療がある他、週3回の訪問看護師による健康管理をしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は電話や面会時に家族に伝えている。職員間では受診記録により共有している。緊急時には協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週三回訪問看護師が来所し、様子をみてもらっている。24時間体制なので、緊急時などいつでも適切な指示が受けられるようになっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに情報提供・交換を行い早期の退院ができるよう、努めている。入院中も、現状報告や相談等、電話で情報交換を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化に関する説明や、本人や家族の意向を確認している。状況の変化の際には、主治医や看護師、家族に相談しながら、意向に沿えるよう支援できるようにしている。	契約時に「重度化に関する指針」に基づいて事業所でできる対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を聞き、主治医、看護師等と、医療機関や他施設への移設を含めて話し合い方針を決めて、共有して取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変・事故発生時に備え、救急隊員によるAED講習など、研修に参加し実践力を身につけている。また事故発生時には速やかに報告書を作成し事故対策委員会に提出報告している。	事例が発生した場合は、その日の職員間で再発防止策について話し合い、ヒヤリハット、事故報告書に記録し、職員には朝の申し送り時に伝えている。法人の事故対策委員会の意見等を踏まえてユニット会議で話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。職員は緊急時に備えて、消防署やライオンズクラブ、自治会主催の救急救命法等の講習に参加している。内部研修や拠点施設合同研修でも食中毒、ノロウイルス、転倒、脱水症、緊急時の対応などについて学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでに至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いのもと、昼・夜想定での避難訓練を行っている。近隣住民や自治会の方も参加し避難経路や消防設備の使用方法など実演して身につけている。また毎朝の朝礼で消火設備の種類・位置を唱和し確認している。地域で行われる図上訓練にも参加している。	年2回、消防署の協力を得て拠点施設合同の昼夜想定火災避難訓練、避難経路の確認や消防設備の使用訓練を自治会や近隣住民、運営推進会議メンバーも参加して実施している。自治会主催の図面上の模擬防災訓練(年1回)に職員が参加し、連携について確認し合っている。拠点施設の緊急自動通報網には、自治会長や副会長が加入しており、地域住民のとの協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合わせた言葉かけや場面に合わせた対応や声掛けを行い、誇りやプライバシーを損ねないような言葉を選び対応している。職員間の会話も入居者にわからないように配慮している。接遇研修に参加し対応に努めている。	拠点施設合同研修で「接遇」について学び、職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。個人情報の管理や取り扱いに注意するとともに守秘義務についても遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が理解しやすく意思表示がしやすいように、絵に表したり、字で表現して工夫している。また本人からのサインを見落とさず、思いに添えるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や、意思や希望などを尊重し、ケアプランなどを行う際は本人のペースで過ごせるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室に本人持ちの鏡や化粧道具を備えている方もおり、洗面所に鏡を設置しているのので、自身で身だしなみを整えることができる。一人で行なえない方でも、職員が一緒に行なう事で、その人らしいおしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや状態に合わせ、変更したり食べやすい状態にしている。皿や盛付け等も工夫し、目で見て食事を楽しめるようにしたり、和え物を一緒に作成・盛付けしたり、職員も一緒に食事の席につき、会話も楽しんでいる。食後は一緒に茶碗を洗ったり、拭いたりしている。	三食とも法人の配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。利用者の好みや、状態に合わせて形状の工夫をするなど利用者に合わせて提供している。事業所で出し昆布のつくだ煮などの一品料理をつくっている。利用者は、下ごしらえ、味付け、盛り付け、ランチョンマットを敷く、食器洗いなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルで会話をしながら食事をしている。誕生日のケーキづくり、季節の行事食(おせち、ひな祭り、土用の丑、クリスマスなど)、家族会行事(そうめん流し)、弁当持参の外出、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスの取れたメニューを考えた食事になっている。食分量、水分量はそれぞれ個人ファイルに記録しており、足りない時は、高カロリー食などの提供で補うようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士から、一人ひとりに合ったケア方法を教えていただき、ファイルに入れていつでも確認できるようにしている。起床時、毎食後に口腔ケアを行ない清潔保持に努めている。義歯は夕食後に預り毎日洗浄、消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人別に排泄表に記載している。表から排泄パターンや習慣を知り、一人ひとりに合わせた方法で、本人からのサインを見逃さないようにし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握して、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヤクルトや牛乳を飲用したり、適度な運動を取り入れたり、水分補給や体を動かしたりして、自然排便を促すように努めている。一人ひとりに合わせた予防にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	現状は3日に1回のペースで入浴している。希望があればいつでも入れるように対応している。また、季節によっては菖蒲やゆずなどを入れ、楽しんでいただく。	入浴は、10時30分から11時40分までと、13時30分から16時までの間、3日に1回は入浴できるように支援している。好みのシャンプーなど利用者の希望を聞き、季節には菖蒲湯や柚子湯にして、ゆっくりと入浴できるように支援している。利用者の体調により清拭、足浴など個々に応じた支援をしている	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めておらず、1人1人のその日の様子を見ながら、昼夜問わず安心して横になれるように支援している。室温、照明、音等本人の好みに合わせている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬のファイルを作っており、処方箋などすぐに確認できるようにしている。当日の服用薬は時間別、個人別に管理しており、服薬事には、しよくいん2名でダブルチェックを行い、誤薬防止につとめている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や、出来る事をして他者や職員と一緒に喜び合ったり、張りあったり、毎日楽しく過ごせるように支援している。センター方式を活用し、ケアプランに反映させ一人ひとりに合った内容を提供できるよう努めている。	テレビやDVD視聴、買物、ぬり絵、折り紙、紙細工の壁面飾りづくり、カラオケ、歌を歌う、計算ドリル、漢字ドリル、まちがい探し、お茶会、カルタ、刺繍、棒体操、嚙下体操、ボーリング、ボール投げ、雑巾かけ、モップかけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ふきんや雑巾づくり、ウエスづくり、ゴミ箱づくり、日課表にそって国語や算数の指導をする、一時帰宅して近所の花をもらうなど、利用者一人ひとりのしたいことやできることを活かして、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	1日1回はホーム外に出掛けられるよう努めている。個人的に外出する場合は、家族の協力や、他部署の協力もあり、買い物や、花など鑑賞しに行っている。季節ごとの行事(初詣、花見、地域祭等)も外出支援できるよう支援している。	事業所周辺の散歩、好きな物を自分で買いに行く、テラスでのティータイム、地域の祭り、初詣、四季の花見(桜、紅葉、紫陽花など)、ドライブ(海水浴場など)、喫茶店、老の山公園、家族会行事、家族の協力を得て外出、外食、一時帰宅、墓参り、法事や結婚式への出席、馴染の美容院の利用、月1回の個別外出など、戸外に出かけられるよう支援している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がある場合は家族と相談の上、支障のない程度の現金を所持している。行事や買い物支援で、実際にお金を使う機会もあり、その際は支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や友人といつでも電話で話せるようにしている。年賀状や手紙も書けるように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の色々な場所に花を飾ったり、季節に合わせた手作りの飾りを置き、その季節を感じられるように工夫している。大きな窓から入る自然の光や音、風も感じられるように、その時々に合わせて配慮している。	廊下や食堂の総ガラス張りの窓からは中庭の樹木を眺めることができ、自然や季節を感じることができる。陽ざしで共用空間は明るく、休息コーナーにはテレビやソファなどが配置しており、廊下にも椅子が所々に置いてあり、利用者が思い思いにくつろげる居場所づくりをしている。壁面には利用者の作品や絵画が飾ってある。季節の花が生けてあり、部屋の温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも、テーブルごとに気の合う仲間に分かれたり、その時々状況に合わせて、職員側での配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明の際、本人の馴染みのものや、使い慣れた物をできるだけ持って来てもらうようにして本人の居心地の良い空間になるようにしている。	ベッド、ソファ、ダンス、衣装掛け、椅子、加湿器、テーブル、ぬいぐるみ、衣装ケース、時計、鏡台、テレビなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真、カレンダー、習字、ぬり絵、色紙、はがき、似顔絵、折り紙などを飾って、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせ、わかりやすいように表記したり、居室に名札を付けたりと、安全に自立した生活が送れるように支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム フロイデ彦島

作成日: 平成 29年 12月 20日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時の対応について、研修や講習会に参加し学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	緊急時に、全職員が同等の応急対応、初期対応ができるよう身につけるようにする。	定期的に事業所内で、様々なシチュエーションの緊急対応の模擬訓練、勉強会を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。